

今年度最後の地区奉仕プロジェクト

医療用フェイスシールドを千葉県とブラジルへ

国際ロータリー第 290 地区ガバナー 諸岡 靖彦

政府は 18 日、新型コロナウイルスの対策本部会合で、都道府県境をまたぐ移動の自粛要請を 19 日から全面的に解除することを決定しました。イベントの人数上限も千人まで緩和し、プロスポーツは無観客で認めるなど、経済社会活動の範囲拡大と感染防止をいかに両立させるかを課題として、今後は第 2 波の感染抑制を図る段階に進むこととなります。

ロータリーの活動が年度末にあり、ようやく例会が復活し、またオンラインによるリモート会合が目立って進展を見せているという便りを耳にして、現役ガバナーとしてまことに感慨深いものを覚えます。全世界で感染者が 835 万人を超え、死者 45 万人（6 月 18 日現在ジョンズ・ホプキンス大学まとめ）というパンデミックの同時進行を目の当たりにして、私たちロータリアンは何を感じ、何を思い、どう行動して行けばよいのでしょうか？

米国やブラジルに代表される感染が急拡大した（している）国々には、共通して貧困と医療保険制度の普及に遅れが認められ、医療の恩恵を受けられずに、重症化し、手遅れで死に至り、医療崩壊を来し、混乱が加速するという悪循環が窺えます。貧困の背後には対立と分断、格差や差別の急速な拡大があります。

幸いわが国は死者が千人に満たず、人口百万人当たりで 7 人（米国 365 人、ブラジル 224 人）と、国際比較してもきわめて少数です。違いが何に因るのかは未詳ですが、これだけでも日本人は今後、支援をする側に立たねばならないのではないのでしょうか。

6 月 4 日、私は千葉県庁を訪ね、今年度最後の地区奉仕プロジェクトとして、健康福祉部（加瀬博夫部長）に Rotary のロゴの付いた医療用フェイスシールド 5 万セット（本体金額約 550 万円相当、運賃別）を寄贈いたしました。県を介して千葉県医師会、歯科医師会で、それぞれの医療現場でお役立ていただけることになりました。森田県知事より礼状が届いておりますので、添付いたします。

併せて、このフェイスシールド・プロジェクトを主導した第 2760 地区（愛知県/伊藤靖祐ガバナー）の提唱で、新型コロナウイルスが将来に感染爆発中の南米ブラジル、ペルーと東南アジアのフィリピン、マレーシアの 4 カ国を相手国とするグローバル補助金に因る支援プロジェクトに参加することといたしました。全国 24 地区がそれぞれの地区財団資金 DDF を拠出して、総額 3 4 万 8 千米ドルのプロジェクトとなりました。当地区からは 1 万米ドルを拠出して、支援先相手国はブラジルとなりました。ブラジルは世界最大の日系人居住地で、約 1 6 0 万人の日系人が住むといわれていますし、感染爆発と医療崩壊が懸念

されています。感染拡大の沈静化の一助となれば幸いです。





拝啓 時下ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

このたびは、千葉県の新型コロナウイルス感染症対策に対しまして、御寄附をいただき、ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症については、予断を許さない状況が続いているところであり、医療関係者の皆様をはじめ、多くの方々に様々な御協力をいただいております。

県といたしましても、感染拡大の防止と社会経済活動維持の両立に向けて、引き続き、一丸となって取り組んでまいります。

いただいた御寄附は、新型コロナウイルス感染症対策に幅広く活用させていただきます。

今後とも千葉県に対する変わらぬ御支援、御協力をいただきますようお願いいたします。

略儀ながら、書中をもってお礼申し上げます。

敬具

令和2年6月9日

国際ロータリー第2790地区 様



チーバくん

千葉県知事

森田健作